

教育貢献賞受賞記念講演

次世代育成：吉川イズムの伝承

赤坂 隆史

和歌山県立医科大学・循環器内科

Summary

1982年に和歌山県立医科大学卒業後、現在の神戸市立医療センター中央市民病院で初期研修を受け、1984年からは恩師であり、本会の元理事長である吉川純一先生の下で臨床心臓病学だけでなく医師としての基本から教えを受け、その考え方（吉川イズム）に感銘し、共感し、実践してきました。どこまで達成できているか、どれだけ伝承できているかは分からないが、自分なりに体得した赤坂風の「吉川イズム」を次世代を担う後進の先生方に伝えてきた結果、この度、栄誉ある教育貢献賞を賜ることとなり、御推挙・選考いただいた関係の皆様にご挨拶申し上げますとともに、育てていただいた恩師の吉川先生に感謝いたします。

我々医師は、患者さんの治療に関してその時だけでなく、生涯にわたって責任を負う。それ故、自分の治療が正しいか否かに関して、常に第3者評価を受け、最良の治療を見出すために日々研鑽を積まなければならない。その第3者評価を受ける場が研究会・学会であり、素晴らしい成果であれば賞賛を受け、不十分であれば厳しい評価を受ける。**学会はいわば他流試合の場**で、**演者は自身の道場の成果を示す代表者**であり、その成果は、代表者一人の力によるのではなく、常にメディカルスタッフの協力で達成された**ハートチームの結晶**である。若い参加者は、その場の真剣勝負から多くを学び、師範というべき指導者は他道場の素晴らしい成果を見習い、さらに良い治療法を目指して**次世代育成**に努める。日本心臓病学会がまさしくそのような真剣勝負の場であり、私も同門からの応援を受け、時に傷を負いながらも吉川道場の看板を背負って真剣勝負に臨み、多くを学んできた。「**大学に負けない臨床研究**」を合言葉に日常臨床の成果をまとめ、それが正しいか否かを第3者に問い、より良い診断・治療を目指してきた。海外にも多くの他流試合の場を求め、国際的に切磋琢磨することで自分たちだけでなく社会全体の医療レベル向上にも貢献でき、多くの友人たちと臨床研究の重要性に対する価値観を共有することができた。その価値観には常に「**次世代育成**」という考えが根底にあり、日常臨床だけでなく臨床教育・臨床研究を通して次世代育成を実践してきた。この素晴らしい考え方を享受された国内外で活躍される数多くの弟子たちによって将来にわたって「吉川イズム」が伝承され続けることを期待している。